

ヒューマン・サービス志向を規定する 心理・社会的要因 (1)

佐々木美加・木村 進

【問 題】

ヒューマン・サービス (person-helping professionals) とは、人を相手にする職業であり、主として看護婦やソーシャル・ワーカーや、スクール・カウンセラーなど援助が必要な人に対応する職種を指す。福祉専攻では、このうち医療行為以外のヒューマン・サービス従事者を養成し、社会福祉士、精神保健福祉士、臨床心理士などの資格を取得できるカリキュラムが設定されている。大半の福祉専攻学生は、こうしたシステムに適応し、福祉に携わるヒューマン・サービスへの従事を希望するが、大学生活を送るうちにそうした動機づけが減退し、職業選択を変えたり大学を退学するものもいる。本研究の目的は、適応的なヒューマン・サービス従事を促進する心理・社会的要因を明らかにするために調査研究を行うことである。調査では、まず、ヒューマン・サービスに従事するためには、福祉専攻課程に適応することが重要だと考えられるので、大学適応とヒューマン・サービス志向の関連を検討する。次に、ヒューマン・サービスに適性が必要となるので、ヒューマン・サービスに必要な個人特性や対処行動を検討する。

心理・社会的適応とヒューマン・サービス志向

福祉専攻では、学業においてはヒューマン・サービスを中心とした福祉教育を支援するカリキュラムが設定され、ヒューマン・サービスに就職するためには優れた環境にある。すなわち、こうした環境に適応すればヒューマン・サービスへの理解も深まり、就職したいというヒューマン・サービスへの動機づけが高くなり、よりいっそうヒューマン・サービスに関連する資格を取得しようと努力すると考えられる。逆に、大学の環境に適応できなければ、ヒューマン・サービス志向も弱まり、資格を取得に努めることもなくなるであろう。したがって、大学生活における適応度が高いほど、また、抑うつ感が低い心理的に健康な状態であるほど、ヒューマン・サービス志向が高く保たれる (仮説 1, 仮説 2) と予想される。

ヒューマン・サービスと個人特性・態度特性

ヒューマン・サービスは献身的対人態度と客観的対処というストレスフルな職務で、バーンアウトなどの不適応が生じやすい (久保・田尾, 1991; Lemkau, Rafferty, & Rudisill, 1987)。し

たがって、大学への適応だけでなく、これらの資質がなければヒューマン・サービスへの適性を欠き、ヒューマン・サービス志向が弱まると考えられる。

第1に、ヒューマン・サービス志向を保ちつづけるためには、ヒューマン・サービスの扱う内容に関するストレスに適切に対処できることが必要だと考えられる。ストレス対処として、楽観的な説明スタイルを持つ者は、ストレス耐性が強く、ストレス反応としての抑うつ感は低いので (Abramson, Metalsky, & Alloy, 1989)、楽観的帰属および楽観的人間観が強ければ、適応度が高く (仮説 3-1, 3-2)、抑うつ感が低く (仮説 4-1, 4-2)、ヒューマン・サービス志向が高い (仮説 5-1, 5-2) と予想される。

第2に、サポートの知覚は不適応などストレスの悪影響を緩和する効果があるので (Caplan, 1974)、サポートの知覚が強いほど適応度は高く、抑うつ感は低く、ヒューマン・サービス志向が高いと考えられる。田尾・久保 (1989) は、ヒューマン・サービスのうち看護婦を対象に適応に関する調査を行い、上司や同僚のサポートが多いほどバーンアウトが少ないことを示した。これを援用すると、福祉専攻の学生は大学の先生や友人のサポートが強くと知覚するほど、ヒューマン・サービス志向が高く (仮説 6)、抑うつ感は低い (仮説 7) と考えられる。これらの仮説を検討し、ヒューマン・サービス志向に影響を与える要因を検討するため、調査を行った。

【方 法】

調査対象 仙台市内の福祉系大学学生 243 名 (男性 68 名, 女性 174 名, 平均年齢 18.7 歳)。

調査期間 第一回調査 2001 年 7 月初旬

質問紙 被調査者には、性別・年齢・居住形態 (家族と同居かひとり暮らしか)・未婚か既婚か・大学の専攻、ボランティア活動の経験の有無について回答を求められた。被調査者は、心理・社会的適応に関して、大学適応尺度 (College Adaptation Questionnaire: CAQ; van Rooijen, 1986)、抑うつ感については Self-rating depression scale: SDS (Zung, 1965) に回答した。被調査者の個人特性としての対人態度と対処ストラテジーを測定するため、人間観尺度 (仁平, 2000)、方略・帰属質問紙 (Strategy and Attribution Questionnaire: SAQ; Eronen, Nurmi, & Salmela-Aro, 1998) の日本語訳 (仁平・佐々木共訳)、に回答するよう求められた。また、被調査者に対するサポートについては、ソーシャル・グループ (学内のサークル、職場やバイト先、同じ学部や授業の友人、学外のサークル・団体、大学の先生や職場の上司) のサポート知覚を「助けにならない」～「助けになる」の 4 段階で回答した。被調査者は、ヒューマン・サービス志向として、ヒューマン・サービスへの動機づけとヒューマン・サービス関連資格の取得希望数を回答した。ヒューマン・サービスへの動機づけは「福祉関係の職業にぜひつきたい」～「つきたいとは思わない」の 5 段階で、資格取得希望数は、学内で取得可能なヒューマン・サービスに関連する資格を列挙 (18 項目) し、取得希望のものを複数回答で選択するよう求められた。

【結 果】

(1) 尺度の妥当性 人間観尺度, SDS, CAQ ($\alpha=.71, .67, \text{ and } .89$) の妥当性は確認された。人間観尺度は、因子分析の結果、固有値 1 を基準として 6 因子が妥当となった。第一因子 (固有値 2.0, 寄与率 10.0%) は「みにくい」「不可解な」「破壊的な」「矛盾した」などの項目が高負荷を示したので (.55~.78), 否定的人間観と命名した。第二因子は (固有値 1.5, 寄与率 7.7%), 「柔軟な」「正直な」「偉大な」「あたたかい」「愛すべき」の項目に高負荷を示したので (.45~.70), 肯定的人間観と命名した。第 3 因子 (固有値 1.5, 寄与率 7.6%) は「たくましい」「冷静な」「利己的な」「自由な」の項目に高負荷を示したので (.47~.74), 闊達人間観と命名した。第 4 因子は (固有値 1.5, 寄与率 7.1%), 「感情的な」「孤独な」「動物的な」の項目が高負荷を示したので (.57~.69), 感情的・動物的人間観と命名した。第 5 因子と第 6 因子 (いずれも固有値 1.0, 寄与率 10.0%) は「複雑な」「思慮深い」「理性的な」の 3 項目がそれぞれの因子に高負荷を示したので (.40~.88), 解釈が困難であるので分析から省いた。したがって、人間観は否定的人間観, 肯定的人間観, 闊達人間観, 感情的・動物的人間観の 4 因子の因子得点を変数として用いた。SAQ の尺度としての信頼性係数は低かったが ($\alpha=.33$), 二つの次元 (達成次元と関係次元) ごとに因子分析を行った結果, Eronen, Nurmi, & Salmela-Aro (1998) と同様の因子構造を示した。達成次元では成功期待 (固有値 3.1, 寄与率 10.1%), 課題無関連 (固有値 2.4, 寄与率 18.0%), ソーシャル・サポート探索 (固有値 2.4, 寄与率 25.8%), 熟慮 (固有値 2.3, 寄与率 7.6%), コントロール (固有値 2.3, 寄与率 10.0%) の 5 因子, 関係文脈は成功期待 (固有値 3.3, 寄与率 10.9%), 課題無関連 (固有値 2.8, 寄与率 9.4%), 回避 (固有値 2.6, 寄与率 8.5%), コントロール (固有値 2.4, 寄与率 8.0%), 悲観主義 (固有値 2.1, 寄与率 7.0%) の 5 因子が妥当であった。それぞれ因子得点を SAQ の得点とした。(SAQ の下位尺度は Table 1・Table 2 参照)。

(2) 心理・社会的適応とヒューマン・サービス志向 ヒューマン・サービス志向と各心理・社会的適応の尺度 (CAQ と SDS) について、相関分析を行った。ヒューマン・サービスへの動機づけの高さと CAQ および資格取得動機と CAQ は有意な正の相関を示した ($r=.29 \text{ and } .21, p < .01$)。ヒューマン・サービスへの動機づけと SDS, および資格取得動機と SDS は有意な相関関係は見いだされなかった ($r=-.09 \text{ and } -.09, n.s.$)。

(3) 心理・社会的適応を規定する要因の検討 (Fig. 1 参照) ヒューマン・サービス志向およびそれと相関が見いだされた心理・社会的適応に対して、人間観やストレス対処の帰属パターンと方略パターンがどのような関連を持つかを検討するため、ヒューマン・サービス志向 (ヒューマン・サービス従事動機, 資格取得動機), 心理・社会的適応 (CAQ, SDS) をそれぞれ目的変数, 性別, SAQ, 友人数, ソーシャル・グループのサポート知覚, 人間観を説明変数として回帰分析を行った。その結果, ヒューマン・サービス従事動機については, 友人数, 先生・上司, 同じ学部や授業の友人のサポート知覚及び肯定的人間観が有意に正の影響を及ぼしていた ($\beta=.18^*$,

Table 1 SAQ 達成文脈項目

達成文脈	
・成功期待 $\alpha = 338(N=239)$	1 これから何か仕事をしようとするときは、たいてい、自分は成功するという確信がある。 6 はじめての状況でも、いつも、自分はなんとかうまくやれるだろうと思う。 1 0 勉強で何か得た問題が起きたときは、どうやらうまくいくかよく考えることが多い。 1 5 新しい状況に対応できない、と思うことがよくある。 2 0 勉強をどうやらよいか、よく考えることが多い。 2 5 かなりむずかしい課題に直面しても、たいていうまくやっている。
・課題無関心 $\alpha = 192(N=241)$	2 面倒な事をしなければいけないときには、それは別なことをしたくなる場合がよくある。 1 1 大学でレポートや課題が、うまく進まない、すぐに勉強に関係のない場所に行ってしまう。 1 6 難しそうだと思うと、はじめる前から何かほかのことをしようとする。 2 1 むずかしい課題に直面したとき、本気でやろうとしないことが多いと思う。 2 6 2 次の日やっかいな事があるときは、具合が悪くなるが多い。
・ソーシャル・サポート探求 $\alpha = 753(N=239)$	3 自分の心配ごとは、ほかの人に話しても仕方がない。 7 自分自身の問題は、ほかの人の助けをあまり期待しない。 1 2 何か物事がスムーズにいかないと、友人に相談するのがよい。 1 7 助けになってくれる人がいる。 2 2 いろいろ困ったことがあるときは、ほかの人に相談するのがよい。 2 7 一緒に話ができる人がいるのはいいことだ。
・熟慮 $\alpha = 392(N=239)$	4 困ったときは、どうやって切り抜けるか、じっくりと考えることが多い。 8 何かを長い時間考え続けるのはまったく無駄なことだ、うまくいかないときは、忘れるのがいちばんだ。 1 3 物事が思うようにならないときは、いったん中断して、考えてみるのがよい。 1 8 物事が悪い方向に進みそうになったら、いったん中断して、考えてみるのがよい。 2 3 むずかしいことが起っても、よく考えて行動するたいていうまくいく。 2 8 困ったことがあるときは、長い時間をかけてそのことについて考える。
・支配コントロール $\alpha = 391(N=239)$	5 勉強がうまくいくかどうかは、運次第だ。 9 勉強がうまく進むかどうかは、状況次第だ。 1 4 どうやら勉強がうまくいくようになるかわからない。 1 9 長い目でみれば、学習での成功はその他の知識や能力でまかなえるのではない。 2 1 しっかりと試験の準備をすれば、いい結果が出る。 2 9 勉強をすればするほど試験がうまくいくと思う。 3 0 勉強がうまくいくかどうかは自分次第だ。

Table 2 SAQ 関係文脈項目

関係文脈	
・成功期待 $\alpha = 708(N=238)$	3 4 たいていの人とは、うまくやっていると、思う。 4 9 人との関係はたいていうまくいかない。 5 0 私は、たいてい人とうまくやっていた。 5 8 私は人から好かれていると思う。
・課題無関心 $\alpha = 535(N=237)$	2 何かをみんなでやろうと誘われたとき、まだ仕事が終わっていないからと、言い訳をして断ることがある。 3 7 仲間と誘われると、すぐに応じる。 4 2 ともだちと余り約束をすぼかして、あとでなんとか言い訳をすることがある。 4 7 あまり多くの人中にいるのは、苦手だ。 5 2 大学の同級生たちと一緒に何かをするよりも、もっと大事なことがほかにある。 5 6 やるべきことがたくさんあるときに、人とあれこれおしゃべりするのは無駄だと思う。 5 9 仲間が何かしていると、いわれるまでもなく自分から参加する。
・回避 $\alpha = 631(N=233)$	3 1 大勢の人の中では、落ち着かないことが多い。 3 6 どこかで何かやっているのを見ると、自分も参加する。 4 1 集団にいるよりも、自分一人か、誰か二人でいる方が好きだ。 4 6 グループを前にして話をするのは何でもない。 5 1 なかなか友だちがつかえなかった。 5 8 人中にいるのが怖いので、ひとりであることが多い。
・関係文脈・支配コントロール $\alpha = 958(N=239)$	3 3 かなり長く一緒にいないと、ひとを本当に理解することはできない。 3 8 知り合ってから人々を理解するには時間と忍耐が必要だ。 3 9 私がどう努力しても、人は私のことを悪く思うだろう。 4 3 グループの中で物事がうまくいかなかったら、ほかの人の意見を聞いて分かり合おうとするのは時間の無駄だ。 4 4 ちよつと努力すれば、ほかの人とうまくやっていると、思う。 4 8 だれかほかの人を理解するには時間と忍耐が必要だ。 5 3 人と知り合ってから友だちになれるかどうかは運次第だ。 5 7 気長に努力すれば、遠くにいる人でも理解しあうことができる。 6 0 友達をつくるものではない、自然にできるものである。
・悲観主義 $\alpha = 570(N=239)$	3 5 知らない人と会うとき、わざわざうまくやれると思うのに、それでも悪いことが起こりそうなのがある。 4 0 他人とうまくいかなければ、と、考えてしまう。 4 5 もし嫌われたり仲間はずれにされたらどうしよう、と思うことがよくある。 5 4 人とうまくやれると、安心する。

.22**, .15+, and .21*, $R^2=.18$)¹⁾。また、資格取得希望数に対しては、職場やバイト先、同じ学部・授業の友人、学内のサークルの友人のサポートが強いと知覚されるほど資格志向および達成文脈における課題に関連の低いストラテジーを用いる程度が有意に正の影響を及ぼした ($\beta=.21*$, .21**, .19*, and .26**, $R^2=.21$)。次に心理・社会的適応のうち、大学適応 (CAQ) に対しては、友人数、先生・上司のサポート知覚、肯定的人間観、関係文脈における課題無関連ストラテジーが有意な正の影響を示し ($\beta=.25**$, .15*, .28**, and .32**), 達成文脈の課題無関連ストラテジーが有意な負の影響を示した ($\beta=-.14*$, $R^2=.48$)。抑うつ感 (SDS) に対しては、性別²⁾ および関係文脈における課題無関連のストラテジーが有意な正の影響を示し、先生・上司のサポート知覚と関係文脈における成功期待方略が有意に負の影響を示した ($\beta=.15*$, .19*, -.19, and -.16+, $R^2=.38$)。

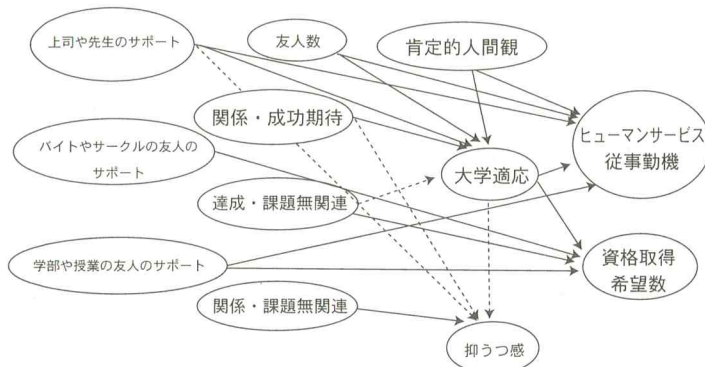


Fig. 1 ヒューマン・サービス志向に対する心理・社会的影響

【考 察】

本研究の目的は、調査によって福祉専攻の学生が、適応的にヒューマン・サービスに従事するため、ヒューマン・サービス志向を維持・促進する要因を検討することであった。ヒューマン・サービス従事のためには、大学生活での適応が必須であるので、まず第1に、大学生活における適応行動 (CAQ) 及び (不) 適応的心理状態 (SDS) とヒューマン・サービス志向の関連に注目し、大学生活における適応度 (CAQ) が高い方がヒューマン・サービス従事志向が高く (仮説1)、抑鬱感 (SDS) が低いほどヒューマン・サービス従事志向が高いと仮定した (仮説2)。調査の結果、CAQ とヒューマン・サービス志向 (ヒューマン・サービス従事動機および資格取得希望数) と有意な正の相関を示したことから、仮説1は支持された。一方、SDS とヒューマン・サービスへの動機づけとの相関は非有意で (仮説2不支持)、抑うつ感はヒューマン・サービス志向に直接の影響を与えないと推察されるが、SDS と CAQ とは強い負の相関が見いだされた ($r=-.54$, $p<$

注1) 表中の数字は β の値, 有意水準は (** $p<.01$, * $p<.05$, + $p<.10$)。

注2) 性別はダミー変数で, 男性=1, 女性=2 とした。

.01)。

この結果は、福祉専攻学生は大学生生活に適応が高いほどヒューマン・サービスに従事する動機づけが高く、関連資格取得希望も強いことを意味している。ただ、抑うつ感が高いからといって、ヒューマン・サービス志向が阻害されるわけではないが、適応と負の相関があることから、間接的にヒューマン・サービス志向に影響する可能性は残る。また逆に適応が低い結果、抑うつ感が強くなっている可能性はある。いずれにしても、大学適応 (CAQ) と心理的不適応 (SDS) およびヒューマン・サービス志向の間の因果関係は、今回の一回のみの調査では検討することができないが、福祉専攻の学生の心理・社会的適応がヒューマン・サービス志向と深い関連があることは明らかになった。

次に、本論文では、適応的なヒューマン・サービス志向を促進・維持するために必要な個人要因、社会的要因を検討した。ヒューマン・サービスはバーンアウトなど対人ストレスによる消耗が生じやすい職場であるので、ストレス対処に関連する社会的要因として友人数、社会的認知変数としてサポート知覚、及びストレスに関連する個人要因として性差、人間観という対人的態度、及びストレスに対する認知と対処を測定する帰属と方略がヒューマン・サービス志向にどのような影響を及ぼすかを検討した。

まず、心理・社会的適応として、抑うつ感を目的変数、性差、サポート知覚、肯定的人間観、否定的人間観、SAQ を説明変数として回帰分析を行ったところ、SAQ のうち関係文脈で成功の期待をあまり持たない帰属や対処方略、および関係文脈における課題に無関連な方略を用いるほど、抑うつ感が高いことが示された。これは楽観的帰属・方略が少なければ、抑うつ感が高いことを意味している(仮説4-1, 4-2)。これとは逆のパターンで、肯定的人間観を持ち、SAQ のうち関係文脈において成功期待が高いほど適応度が高く、これは楽観的帰属及び態度が適応を促進するという仮説を支持する結果であった(仮説3-1, 3-2)。また、抑うつ感は女性の方が男性よりも高いという結果は過去の研究結果を再確認するもので、友人数が多い方が大学適応が良いという結果は、看護婦の調査で職場上司と共に職場の同僚のサポートが適応を促進するという結果と合致するものである(久保・田尾, 1989)。

同様にヒューマン・サービス志向(対人援助従事動機、資格取得希望数)を目的変数、性差、サポート知覚、楽観-悲観人間観およびSAQ を説明変数として回帰分析を行ったところ、ヒューマン・サービスへの動機づけについては、友人数が多く、肯定的人間観が高く、上司や先生のサポート及び学部や授業の友人のサポートが強く知覚されるほど、ヒューマン・サービス動機が高いことが示され、仮説5-2は支持された。資格志向については、バイトやサークルの友人のサポートおよび学部や授業の友人のサポートが強く知覚されるほど、SAQ のうち達成課題無関連の方略を用いる方が資格取得希望数は多く、楽観的帰属及び楽観的人間観が資格志向を規定するという仮説は支持されなかった(仮説5-1)。これらの結果は、ヒューマン・サービスへの動機づけは、人間を肯定的なものとしてとらえる楽観的人間観と、学部を中心とした師弟関係や友人関係におけ

るサポートに支えられていると考えられる。これに対して、資格取得希望数は学部や授業の友人だけでなくバイトやサークルの友人に支えられ、意外なことにSAQについては達成文脈の課題無関連方略を多く用いる方が資格取得希望数を多かつたのである。達成文脈の課題無関連帰属・方略は、一見資格志向を阻害するようにも思われる。しかし、実際資格の取得に取り組んでみると複数の資格を取得するのは難しいという現実気づくことになる。これが逆に資格取得のために試験勉強をしたり専門学校に通うなど、実践的な時間や労力を払わなくても何とかなるだろうという楽観的な展望があるからこそ、数多くの資格取得数を回答し、その結果課題無関連が資格取得数を促進しているのかもしれない。とくに被調査者の平均年齢が18.7歳と専門教育をまだ十分受けていない一年生が多く、調査時期が7月初旬であったこともあり、ヒューマン・サービスを漠然と楽観的にとらえていたからかもしれない。

結果の記述で示した Fig. 1 に示すように、全体的には、ヒューマン・サービス志向は大学適応とサポート知覚に支えられており、大学適応はサポート知覚と楽観的帰属・方略に促進されるパスが見いだされる。すなわち、ヒューマン・サービス志向はサポートを受け、適応できていれば促進されることが示唆される。ヒューマン・サービス志向のうち、ヒューマン・サービス動機づけと資格取得希望数を規定する要因の明確な違いは、ヒューマン・サービス動機づけは楽観的人間観に促進されるのに対し、資格取得希望数は楽観的人間観から有意な影響は見いだされていない点である。これは前者の場合、ヒューマン・サービス動機が「人間はあたたかく正直な生きものなのだから助け合うべきなのだ」という考えに基づいているのに対し、後者の場合は他者と助け合うというよりも、自己実現として資格志向が生じるからかもしれない。

もうひとつ特徴的であったことは、大学適応とヒューマン・サービス志向が有意な正の相関、大学適応と抑うつ感が強い負の相関を示したにもかかわらず、抑うつ感がヒューマン・サービス志向に有意な関連が見いだされなかったことである。これはヒューマン・サービス志向が楽観的な世界観に支えられており、抑うつという悲観的な世界観とはそれほど強く関連しないことが原因ではないかと推測される。あるいは、抑うつ状態に陥った学生は就職だけでなくすべての領域で動機づけが下がっているのも、特にヒューマン・サービスに対する態度に強く関連するわけではないのかもしれない。また、先にも述べたように被調査者に新入生の割合が高く、まだそれほど抑うつ感を感じる時期ではなかったせいかもしれない。

こうした心理的な適応に関わる時期の問題や、経年変化を追跡するには、単発の調査(one shot survey)だけでは不十分で、同一の被調査者に継続的に調査すること(longitudinal survey)が必要となるであろう。また、継続的に調査し、ヒューマン・サービス志向や心理変数の変化を追跡することによって、相互の因果関係が明らかになると考えられる。この調査を継続して行い、ヒューマン・サービス志向の維持に寄与する要因を探ることが今後の課題である。

【引用文献】

- Alloy, L.B., Abramson, L.Y., and Metalsky, G.I. (1988) The hopelessness theory of depression: Attributional aspects. *British Journal of Clinical Psychology*, 27, 5-21.
- Caplan, G. (1974) *Support Systems and Community Mental Health*, New York: Behavioral Publications.
- Eronen, S., Nurmi, J., & Salmela-aero, K. (1998) Optimistic, defensive-pessimistic, impulsive and self-handicapping strategies in University Environment. *Learning and Instruction*, 8 (2), 159-177.
- 久保真人・田尾雅夫 (1991) パーンアウト—概念と症状, 因果関係について—心理学評論, 34(3), 412-431.
- 久保真人・田尾雅夫 (1994) 看護婦におけるパーンアウト—ストレスとパーンアウトの関係—実験社会心理学研究, 34(1), 33-43.
- Lemkau, J.P., Purdy, R.R., & Rudisill, J.R. (1987) Sex role stress and job burnout among family practice physicians. *Journal of Vocational Behavior*, 31, 81-90.
- 仁平義明 (2000) 心理学の講義は新入生の間観を変えてしまうか?—心理学の教師が注意すべきこと—東北大学学生相談所紀要, 27, 25-30.
- van, Rooijen L. (1986) Advanced students' adaptation to college. *Higher Education*, 15, 197-209.
- Zung, W.W. (1965) A self-rating depression scale. *Archives of General Psychiatry*, 12, 63-70.

付表：質問紙

大学生活と職業選択に関する調査

この調査は、どのような大学生活を送り、どのような職場ではたらくかを調査するものです。この調査票は名前をふせて数量化されますので、皆さんのプライバシーが侵害されることはありません。思った通りの回答をお願いします。また、調査項目に記入漏れがあると、データの質が著しく低下してしまいます。必ずすべての項目に答えてください。

(問い合わせ先)

〒981-8522 仙台市青葉区国見1-8-1

東北福祉大学 総合福祉学部福祉心理学科 2号館4F実験準備室
佐々木美加 tel (022)233-3111 内線(334)

I あなたのことについてお尋ねします。1)～9)までの項目に答えてください。

1) お名前

2) 性別 男 女 年齢 歳

3) 現住所

〒	—
電話番号 携帯・phs	メールアドレス

4) 大学の専攻

()	学部	()	学科	学
籍番号	()	学年	()	年

5) a. 居住形態 (いずれかを○で囲む)

 ひとり暮らし 家族等と同居

b. 家族形態 (いずれかを○で囲む)

 未婚 既婚または同棲中

- 6) 高校卒業後、この大学に入るまでに何か職業に就いたり、別の学校(専門学校・大学を含む)に入ったことがありますか。「はい」か「いいえ」のいずれかを○で囲み、空欄に記入してください。

- a. 過去に職業についていたことがある。
「はい」と答えたかた → ついた職業 ()
- b. 現在も職業についている。
「はい」と答えたかた → いまの職業 ()
- c. 別の学校に入ったことがある。
「はい」と答えたかた → 所属した学校 ()

- 7) ボランティア活動をしたことがありますか(いずれかを○でむ)

- 8) 以下のグループの中で、自分にとって大切だと思ふ順番に1~6までの数字を()の中書き、それぞれのグループに参加する頻度・電話やメールの時間(ない場合は0)を書いて下さい。また、以下のグループは、それぞれの程度あなたの助けになりますか。あてはまる記号を○で囲んで下さい。

順番↓	参加の回数	電話・メール	助けにならない	あまり助けにならない	少し助けになる	助けになる	
() 大学内のサークル	月 <u> </u> 回	<u> </u> 週	時間	i	ii	iii	iv
() 職場やバイト先	月 <u> </u> 回	<u> </u> 週	時間	i	ii	iii	iv
() 同じ学部や授業の友人	月 <u> </u> 回	<u> </u> 週	時間	i	ii	iii	iv
() 学外のサークル・団体	月 <u> </u> 回	<u> </u> 週	時間	i	ii	iii	iv
() 大学の先生・職場の上司	月 <u> </u> 回	<u> </u> 週	時間	i	ii	iii	iv
() 家族や親族	月 <u> </u> 回	<u> </u> 週	時間	i	ii	iii	iv

- 9) 悩みを話せる友人(同性)はどのくらいいますか。 人

II あなたの考えをお聞きします。1)~3)の問いに答えてください。

- 1) あなたは、福祉関係の職業につきたいと思いますか。あてはまる番号一つを○で囲んでください。

2) あなたが将来取りたいと思う資格はなんですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

産業カウンセラー・精神保健福祉士・保育士・学芸員資格・臨床心理士・社会福祉士・
 身体障害福祉司任用資格・知的障害福祉司任用資格・児童福祉司任用資格・
 指導指導員任用資格・心理判定員・中学校または高等学校教諭一種免許状・
 養護学校教諭一種免許状・社会教育主事任用資格・司書資格・学芸員資格・
 食品衛生管理者任用資格・食品衛生監視員任用資格・第一種衛生管理者免許

3) 「人間というもの」の性質を考えると、人間は下の特徴をどの程度持っている存在だと感じられますか。あてはまる数字を○で囲んでください。

* 感じの程度は、だいたい、この数字に比例するものと考えて判断してください

	そう思 わない	どちらかとい えは思わない	どちらとも いえない	どちらかとい えはそう思う	そう 思う
a. 理性的な	1	2	3	4	5
b. 孤独な	1	2	3	4	5
c. 正直な	1	2	3	4	5
d. 矛盾した	1	2	3	4	5
e. 偉大な	1	2	3	4	5
f. 柔軟な	1	2	3	4	5
g. 弱い	1	2	3	4	5
h. 複雑な	1	2	3	4	5
i. 思慮深い	1	2	3	4	5
j. 動物的な	1	2	3	4	5
k. あたたかい	1	2	3	4	5
l. 不可解な	1	2	3	4	5
m. みにくい	1	2	3	4	5
n. 愛すべき	1	2	3	4	5
o. 自由な	1	2	3	4	5
p. 利己的な	1	2	3	4	5
q. 冷静な	1	2	3	4	5
r. たくましい	1	2	3	4	5
s. 破壊的な	1	2	3	4	5
t. 感情的な	1	2	3	4	5

Ⅲあなたの現在の生活についてお聞きします。

1) 以下の中で、この半年間にあったことすべてを○で囲んで下さい。

1. 失恋した。
2. 何かの契約や金銭のトラブルがあった。
3. 入試や資格試験や就職試験に落ちた。
4. 交通事故に遭ったり、事故を起こしたりした。
5. 親友とけんか別れした。
6. 家族とのいさかいで悩んだことがあった。
7. 自分が入院した。
8. 親や兄弟姉妹が入院した。
9. ひとからいやがらせやストーカー行為を受けた。
10. 単位を落とした。
11. 親や兄弟姉妹が死んだ。

2) 次のすべての項目について、あなたにもっとも当てはまる番号を○で囲んで下さい。

- | | |
|--|--|
| | <small>全然思
わない</small> <small>そう思
わない</small> <small>あまり思
わない</small> <small>どうとも
いはい</small> <small>少し
思う</small> <small>そう
思う</small> <small>強く
思う</small> |
| a. 自分の専攻にとっても満足している。 | 1---- 2----3----4----5-- --6 ----7 |
| b. 大学をやめてしまいたいと思うことがある。 | 1---- 2----3----4----5-- --6 ----7 |
| c. 自分はこの大学で何をしようとしている
ろうと思うことがよくある。 | 1---- 2----3----4----5-- --6 ----7 のだ |
| d. もっと違った大学で学びたいと思う。 | 1---- 2----3----4----5-- --6 ----7 |
| e. この大学で友人がたくさんできた。 | 1---- 2----3----4----5-- --6 ----7 |
| f. 大学にいるとあまりリラックスできない。 | 1---- 2----3----4----5-- --6 ----7 |
| g. 大学にいると退屈しない。 | 1---- 2----3----4----5-- --6 ----7 |
| h. 大学でとても失望することがある。 | 1---- 2----3----4----5-- --6 ----7 |
| i. 学生生活がとても楽しい。 | 1---- 2----3----4----5-- --6 ----7 |
| j. 孤独を感じるすることがある。 | 1---- 2----3----4----5-- --6 ----7 |
| k. どう時間を過ごしていいかわからなくなる
ことがある。 | 1---- 2----3----4----5-- --6 ----7 |
| l. ここでの生活にはなじめない。 | 1---- 2----3----4----5-- --6 ----7 |
| m. 気兼ねなく話せる人がいなくて寂しくなる。 | 1---- 2----3----4----5-- --6 ----7 |
| n. 今の生活にとっても満足している。 | 1---- 2----3----4----5-- --6 ----7 |
| o. もし憂うつになっても、友人がいるから
大丈夫だ。 | 1---- 2----3----4----5-- --6 ----7 |
| p. 学生生活になかなか適応できない。 | 1---- 2----3----4----5-- --6 ----7 |
| q. この大学に入ってよかったと思う。 | 1---- 2----3----4----5-- --6 ----7 |
| r. この大学はとてもくつろげる。 | 1---- 2----3----4----5-- --6 ----7 |

3) a~t の質問について、現在のあなたの状態にもっともよく当てはまると思う番号を○で囲んでください。

	ほんの少し のあいだ	少しのあ いだ	かなりの あいだ	ほとんど ずっと
a. 気分が沈んで憂うつだ。	1	2	3	4
b. 朝がたは、いちばん気分がよい。	1	2	3	4
c. 泣いたり、泣きたくなったりする。	1	2	3	4
d. 夜よく眠れない。	1	2	3	4
e. 食欲はいつも通りだ。	1	2	3	4
f. まだ性欲がある。 ^(独身者の場合) 異性に対する関心がある。	1	2	3	4
g. やせてきたように思う。	1	2	3	4
h. 便秘している。	1	2	3	4
i. ふだんより動悸が激しい。	1	2	3	4
j. 何となく疲れる。	1	2	3	4
k. 気持ちは、いつもさっぱりしている。	1	2	3	4
l. いつもと変わりなく仕事(勉強)ができる。	1	2	3	4
m. 落ち着かず、じっとしてられない。	1	2	3	4
n. 将来に希望がある。	1	2	3	4
o. いつもより、いらいらする。	1	2	3	4
p. すんなり決断できる。	1	2	3	4
q. 役に立つ、働ける人間だと思う。	1	2	3	4
r. 生活は、かなり充実している。	1	2	3	4
s. 自分が死んだ方が、ほかの人は暮らしが よくなると思う。	1	2	3	4
t. 日頃していることに満足している。	1	2	3	4

4) あなたは、以下のようなことについてどう思いますか。以下のすべての項目について、当てはまる記号ひとつを○で囲んで下さい。

1 これから何か仕事をはじめようとするときは、たいてい、自分は成功するという確信がある。

- a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う

2 面倒な事をしなければならぬときには、それとは別なことをしたくなる場合がよくある。

- a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う

- 3 自分の心配ごとは、ほかの人に話しても仕方がない。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 4 困ったときには、どうやって切り抜けるか、じっくりと考えることが多い。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 5 勉強がうまくいくかどうかは、運次第だ。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 6 はじめての状況でも、いつも、自分はなんとかうまくやれるだろうと思う。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 7 自分自身の問題は、ほかの人の助けをあまり期待しない。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 8 何かを長い時間考え続けるのはまったく無駄なことだ。うまくいかないときは、忘れるのがいちばんだ。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 9 勉強がうまく進むかどうかは、状況次第だ。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 10 勉強で何か困った問題が起こったときは、どうやったらうまくいくかよく考えることが多い。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 11 大学でレポートや課題が、うまく進まない、すぐに勉強に関係のない場所に行ってしまう。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 12 何か物事がスムーズにいかないときは、友人に相談するのがよい。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 13 物事が思うようにいかないときには、いったん中断して、考えてみるのがよい。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 14 どうやったら勉強がうまくいくようになるかわからない。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 15 新しい状況に対応できない、と思うことがよくある。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 16 難しそうだと思うと、はじめから何かほかのことをしようとする。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う

- 17 助けになってくれる人がいる。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 18 物事が悪い方に進みそうになったら、いったん中断して、考えてみるのがよい。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 19 長い目でみれば、学業での成功はその人の知識や能力できまるのではない。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 20 勉強をどうやったらよいか、よく考えることが多い。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 21 むずかしい課題に直面したとき、本気でやろうとしないことが多いと思う。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 22 いろいろ困ったことがあるときは、ほかの人に相談するのがよい。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 23 むずかしいことが起こっても、よく考えて行動すればたいいてうまくいく。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 24 しっかり試験の準備をすれば、いい結果が出る。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 25 かなりむずかしい課題に直面しても、たいいてうまくやっている。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 26 次の日やっかいな事があるときは、具合が悪くなることが多い。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 27 一緒に話ができる人がいるのはいいことだ。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 28 困ったことがあるときは、長い時間をかけてそのことについて考える。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 29 勉強をすればするほど試験がうまくいくと思う。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 30 勉強がうまくいくかどうかは自分次第だ。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 31 大勢の人の中では、落ち着かないことが多い。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う

- 32 何かをみんなでやろうと誘われたとき、まだ仕事が終わっていないからと、言い訳をして断ることがある。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 33 かなり長く一緒にいないと、ひとを本当に理解することはできない。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 34 たいていの人とは、うまくやっていると。思う。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 35 知らない人と会うとき、おそらくうまくやれると思うのに、それでも悪いことが起こりそうな気がする。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 36 どこかで何かやっているのを見ると、自分も参加する。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 37 仲間に誘われると、すぐに応じる。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 38 知り合ってからその人を理解するようになるまでには、時間と忍耐が必要だ。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 39 私がどう努力しても、人は私のことを悪く思うだろう。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 40 他人とうまくいかなくなることばかり、考えてしまう。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 41 集団でいるよりも、自分一人か、誰かと二人でいる方が好きだ。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 42 ともだちと会う約束をすっばかして、あとでなんとか言い訳をすることがある。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 43 グループの中で物事がうまくいかなかったら、ほかの人の意見を聞いて分かり合おうとするのは時間の無駄だ。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 44 ちょっと努力すれば、ほかの人とうまくやっていると。思う。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 45 もし嫌われたり仲間はずれにされたらどうしよう、と思うことがよくある。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 46 グループを前にして話をするのは何でもない。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う

- 47 あまり多くの人の中にいるのは、苦手だ。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 48 だれかほかの人を理解するには時間と忍耐が必要だ。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 49 人との関係はたいていうまくいかない。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 50 私は、たいてい人とうまくやってきた。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 51 なかなか友だちがつくれなかった。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 52 大学の同級生たちと一緒に何かをするよりも、もっと大事なことがほかにある。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 53 人と知り合って友だちになれるかどうかは運次第だ。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 54 人とうまくやれると、安心する。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 55 人中にいるのが怖いので、ひとりでいることが多い。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 56 やるべきことがたくさんあるときに、人とあれこれおしゃべりするのは無駄だと思う。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 57 気長に努力すれば、遠くにいる人でも理解しあうことができる。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 58 私は人から好かれていると思う。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 59 仲間が何かしていると、いわれるまでもなく自分から参加する。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う
- 60 友達をつくるものではない、自然にできるものである。
a. 全然そう思わない b. そう思わない c. そう思う d. 強くそう思う